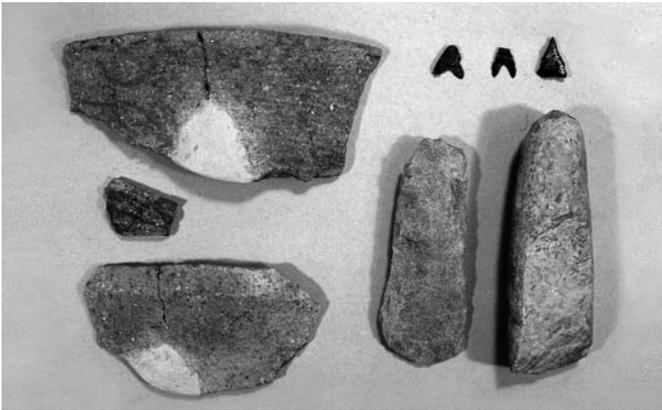




縄文時代晩期前半の第2号竪穴住居跡



小泉遺跡出土の縄文土器と石器

埋蔵文化財包蔵地 小泉遺跡

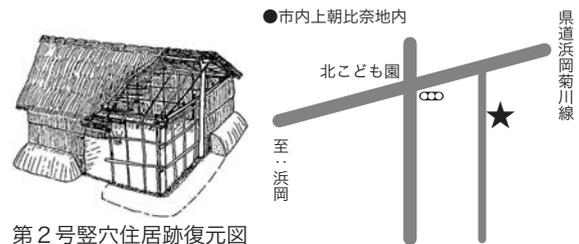
History

キラリを再発見

縄文時代の竪穴住居跡

「小泉遺跡」は、昭和42年1月に静岡大学人文科学部の内藤晃教授と市原壽文助教授により発掘調査が実施されました。この調査で、縄文時代晩期前半（約3,000年前）の土器や石器とともに、竪穴住居跡が3軒発見されました。

県考古学会の向坂鋼二会長は、このうち、第2号住居跡の東西両辺の中央にある柱穴が四隅の柱穴を結ぶ線の外側にあり、屋根の棟を支える棟持ち柱と考察。さらに、四隅の柱が周壁に近いのは壁が屋根下を巡っていたためと推定しています。



第2号竪穴住居跡復元図

Atomic

暮らしと原子力

シリーズ 発電所の津波対策②

仮に、今回設置する防波壁を越える津波が襲来すれば、発電所敷地が浸水する可能性があります。敷地が浸水すれば、屋外に設置してある海水取水ポンプが水に漬かり停止し、海水を利用した原子炉施設の冷却機能が失われる恐れがあります。さらに、建屋内も浸水してしまう恐れがあります。

そこで浸水防止対策として、

- ① 海水冷却機能の維持、② 建屋内浸水防止、③ 機器室内浸水防止対策を施します。

①：屋外にある海水取水ポンプの代替として、3〜5号機の防水構造となっている建屋内へ緊急時海水取水設備を設置。2〜5号機の取水槽連絡トンネルと接続することで、取水源の多重化も図られます。

②③：建屋外壁の防水構造扉の二重化や水密扉に取り換えることで信頼性を強化します。

